

指定管理者制度導入施設の第三者評価結果【対象年度:令和3年度】

1 評価対象施設

施設名	長野県山岳総合センター	所管部・課	観光部山岳高原観光課
指定管理者	一般社団法人長野県山岳協会事業管理	指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日(5年間)

2 評価者(敬称略,五十音順)

評価者名	役職等	備考
相澤 久子	公認会計士	
菊地 俊朗	山岳総合センター 運営懇談会会長	
笹井 文雄	山岳総合センター 友の会	
鈴木 啓助	信州大学 名誉教授・特任教授	
山崎 秀隆	弁護士	

3 評価の実施状況

年月日	場所	内容
令和4年11月25日	長野県山岳総合センター (大町市大町8056-1)	令和3年度の管理運営状況及び県のモニタリング状況について

4 評価結果

※項目は施設の状況等に応じ加除修正してください。

項目	指摘・意見等	左記への対応方針
施設の目的に沿った 管理運営	(全体評価) ・施設の設置目的に沿った事業を広く展開しており適切であると評価する。 ・コロナ禍の中でも、感染対策に留意しながら数多くの事業を実施していることは評価できる。誰もが安心して参加できる運営方法を今後も継続していただきたい。 ・老朽化が著しい施設にもかかわらず、施設を有効に使用できるように創意工夫しながら運営している。	・引き続き、設置目的に沿いつつ、時代のニーズを反映する管理運営を実施するとともに、施設運営においては、第一に安全に留意しつつ、今後も数多くの方にご利用いただけるよう努めてまいります。(指定管理者)
	(学校登山調査) ・小・中学の学校登山調査など少人数の体制で良く頑張っている。 ・信州の素晴らしい文化である「学校登山」についての調査は評価できる。調査を今後も継続するとともに、学校登山が持続的に運営できるようなサポートをしていただきたい。 ・小学校の登山報告書はよくできており、地元の山として子供たちに感動・親しみのある登山になると考える。今後、例えば地域ごとの学校登山動画の作成など、引率する先生の不安解消につなげるような取組をお願いしたい。	・自然体験活動のひとつである学校登山は、山岳県信州だからこそ実践すべきものと考えます。従来からの教育的意義に加え、昨今、災害への非日常対応などを幅広く学べる教育の場にもなっています。学校登山の意義について再認識し、信州教育の文化財ともいえる学校登山を存続し、さらに活性化する方向で取り組んでまいります。(指定管理者)
	(今後の展望に対する懸念) ・県が中心になり、信州の山岳文化の継承と山岳観光を目的とする施設としては、あまりにも広がりを見込めない。	・安全登山の啓発等、登山安全条例に基づく県の責務を果たしつつ、登山環境の変化を踏まえ、県が掲げる「世界水準の山岳観光地域づくり」の具現化に向け、観光振興面を含めセンターの役割・機能を再検討してまいります。(県)

(様式3)

平等な利用の確保	<p>(全体評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや所報を見る限り、平等な利用の確保がなされている。 ・児童・生徒、教職員、一般市民など様々な利用者を受け入れる体制がとられており、平等な利用が確保されていると評価できる。 ・コロナ禍のため、各事業の参加人数を制限せざるを得ない状況の中、基本的に先着順で参加者を決めていることは公平性を確保する上で評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、平等な利用を確保していくとともに、地域住民や学校、一般登山者など幅広い層へのサービスを拡充してまいります。(指定管理者)
	<p>(県外の方の利用の増加に対する懸念)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は利用者が少ないので、ほぼ希望通り受け入れられているが、県外の方の利用を促進すると、平等利用の判断が難しくなるのではないかと懸念されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も広く県内外の利用者増への取り組みを進めるとともに、県民を対象とした自主事業の実施などにも取り組んでまいります。(指定管理者)
利用者サービス向上の取組	<p>(アンケート調査等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査等はサービス向上に役立っていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの要望や意見に配慮し、改善に努めてまいります。(指定管理者)
	<p>(動画配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習内容を動画撮影し配信していることは、対面講習に参加しにくい環境では極めて有効な取組であり、評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もオンラインを活用して、信州の山の素晴らしさや安全登山に寄与する動画など、「山岳県」らしい情報を県内外に向けて発信してまいります。(指定管理者)
	<p>(SNSを活用した登山相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設を直接利用することが困難な社会環境の中で、SNSを利用して登山に関する様々な相談に応じていくことは、施設利用者を拡げていく上でも効果的であり、今後も是非継続していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSがもつ直接個人に届く特性を利用するとともに、発信する内容を十分吟味して相談事業等への活用を継続してまいります。(指定管理者)
県との協働	<p>(設備の利便性向上、安全性の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ設備の更新、改修が行われているが、風呂の利用ができないのは登山者には不便。早い取組が求められる。 ・利用者へのサービスの前提として安全な施設・設備であることが必要であり、関係各所と連携して、老朽化している施設等の点検、補修等に力を注ぐ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでいることから、センターのあり方そのものについて検討を進めるとともに、点検の確実な実施、危険個所の修繕については早期に対応し、安全管理を徹底してまいります。(県)【再掲】
	<p>(教育委員会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校登山」を継続的に実施できるような体制構築を教育委員会と協働しながら是非とも実行していただきたい。さらに、高校生が冬山登山を安全に行えるようなサポート体制づくりを是非お願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県体育センターと連携し、学校教職員向けの研修会を開催してまいります。また、「高校生の冬山・春山登山における安全確保指針検討委員会」からの県教育委員会に対する提言の具現化に向け取り組んでまいります。(指定管理者)
	<p>(県警・山岳救助隊との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの山岳域を抱える本県は、必然的に遭難件数も多くなる。救助の役割を担う県警職員の技術向上のため、宿泊施設も利用した訓練の場となっていることから、県としてもさらなるサポートをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、救助訓練施設としての提供、必要なサポートを行ってまいります。(県)
	<p>(山岳高原観光課との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを利用した登山に関する相談の実施は、登山初心者を安全な登山へと導くツールとして効果的であることから、県としてもその広報に取り組んでいただきたい。結果的には遭難件数の減少にも寄与することが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した登山相談をはじめ、安全登山を推進する上で効果的な取組について、引き続き積極的な広報に取り組んでまいります。(県)

(様式3)

自主事業	<p>(新分野の開拓に対する意見)</p> <p>・コロナ禍で制約があるが、指定管理導入以来、講習会、分野開拓など大きく前進した。登山者の動向からみて、さらに新分野の設定が可能と思われる。</p>	<p>・今後も施設利用者のニーズや登山者の要望に応えるべく、管理運営面の充実を図ってまいります。(指定管理者)</p>
	<p>(オンライン講習に対する評価)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のあった状況の中、一部の講習をオンラインで実施したり、LINEを活用した登山相談、ドローンによる空撮映像の活用など、創意工夫をした自主事業を実施していて、高く評価できる。</p> <p>・リモートでの利用の推進:映像の動画チャンネルでの公開やSNSを駆使した試みは、社会の変化に即応的に取り組んでおり高く評価できる。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策につきましては、新局面を迎えますが、県内外の多数の方々を対象に発信できるというオンラインの特性を活かして、今後も発信コンテンツの充実を図ってまいります。(指定管理者)</p>
	<p>(「里山総選挙！冬山編」)</p> <p>・コロナ禍の中、非常に精力的に活動されている。特に一般向け(県民)に「里山総選挙！冬山編」は山岳総合センター利用経験者以外にも多大な影響を与えたと考えます。</p> <p>・信州の里山総選挙について、冬に日帰りで登れる信州の里山の人気投票を行うことにより、昔から恵みをもたらしてきた里山にも、あらためて関心をもたらすことに繋がったことは評価できる。</p>	<p>・コロナ禍でのアウトドア志向の高まりとともに、里山遭難も増加して来ています。今後も、四季折々の信州の里山の魅力を発信するとともに、特に高齢者対象の里山登山遭難防止の啓発にも取り組んでまいります。(指定管理者)</p>
	<p>(HP等、広報)</p> <p>・HP、所報ともに非常によくできており見やすいものとなっている。</p> <p>・web検索で講座を探す際、「長野県山岳総合センター」という名称を知らないで検索すると、山岳協会や山岳連盟が上位に来てしまい講座等を探すのが少し面倒と感じた。</p>	<p>・今後も、見やすく分かりやすいものとなるよう日々改善してまいります。(指定管理者)</p> <p>・今後は、SEO対策も視野に入れつつ、さらにウェブコンテンツの強化を図ってまいります。(指定管理者)</p>
職員・管理体制	<p>(全体評価)</p> <p>・優秀な人材が確保され、適切な職員配置がなされていると評価する。</p>	<p>・指定管理者としての長期的な展望があっても、優秀な人材が確保できると考えます。この点につきましては、県へも要望してまいります。(指定管理者)</p>
	<p>(人材確保)</p> <p>・職員が3人では限界がある。専属者以外の地域リーダーらを嘱託登用するなど、開催地域の拡大、県民へのPRが必要。</p> <p>・独自の調査研究や講習会・研修会等の開催のみならず、ホームページの運営やSNSの活用、さらには施設の管理および会計も3名のみで分担していることは過重労働になっているのではないかと懸念される。信州の山岳に関する文字通りのセンターとしての役割を果たせるように、増員が可能な指定管理料の増額を県として考慮していただきたい。</p>	<p>・施設の設置目的に沿った事業の充実を図るため、専門性の高い人材確保に努めてまいります。(指定管理者)</p> <p>・登山を取り巻く環境の変化、登山者等のニーズに応じたセンターの役割・機能の考え方を再検討する中で、予算規模についても検討してまいります。(県)</p>

(様式3)

収支状況	<p>(全体評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での主催事業の減収にもかかわらず、経費削減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、効率的な管理運営方法を取り入れるよう努めてまいります。(指定管理者)
	<p>(決算報告書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算報告書に一部誤りがみられた。多くの人が閲覧する決算報告書に誤りがあってはならないと考える。 ・決算報告書に誤りが見られたのは県が簡単なチェックを行っていただければ防げた筈なのでそこは検討して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早急に修正いたしました。今後も監査体制の見直しを含め、適正な会計処理に努めてまいります。(指定管理者) ・協定書等に基づき適正な経理事務が行われるよう、県としてもチェック体制について検討してまいります。(県)
	<p>(予算規模等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3000万余の予算でよく頑張っている。ただ活動を県下全域や山岳観光客対応などを考慮すると、10倍以上の予算があってもいいのでは。 ・3名プラス非常勤1名で、これだけの業務を遂行するのは非常に難しいと思われる。根本的に給与体系を考える時期。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山を取り巻く環境の変化、登山者等のニーズに応じたセンターの役割・機能の考え方を再検討する中で、予算規模についても検討してまいります。(県)
総合評価	<p>(全体評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営管理は非常に良くできており高く評価できる。 ・設置目的に照らし、管理者は適切な管理運営を行うとともに、広範な事業を多数展開しており、総合的に評価できる。 ・条例や協定書に基づき、指定管理者としての責務を全うしており、十分評価できる。 ・登山の安全普及は今の講座運営で当面問題なし。 ・学校登山は学校の方針及び社会の潮流に左右されると思うが、リーダー育成講習や親子登山教室などを粛々と実施していくのが良いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、設置目的に沿いつつ、時代のニーズを反映する管理運営を実施してまいります。(指定管理者)【再掲】 ・今後も協定書や仕様書等で定められた管理運営業務が適正に実施されるよう、指定管理者と連携して取組を進めてまいります。(県)
	<p>(施設の修繕等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボルダリング利用や宿泊については、老朽化した施設を使うより(特に宿泊は冬季は使用は困難)、民間の宿泊施設等(修学旅行用のホテルや民泊など多様にある)を使用するほか、民間の施設を安く利用できる権利(利用券など)を用意するのが良い。 ・施設利用面から、もっとハード面(浴室・食堂)を利用しやすいようにしていただきたい。 ・宿泊設備の維持については議論すべき点が多々あるが、少なくとも老朽化した施設の大規模改修について、県として本気で取り組んでいただきたい。 ・屋外にある人工岩場は貴重な施設のため、メンテナンスに努力してほしい。最近はスポーツクライミングが人気だが、登山(アルパイン)には岩登りの基本をマスターする上で重要な施設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、人工岩場とボルダリング壁につきましては、引き続き利用者が安全に楽しく利用できるように、管理の徹底と工夫に取り組んでまいります。(指定管理者) ・施設の老朽化が進んでいることから、センターのあり方そのものについて検討を進めるとともに、点検の確実な実施、危険箇所の修繕については早期に対応し、安全管理を徹底してまいります。(県)【再掲】
	<p>(今後の取組、取組姿勢)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の山岳対応は市町村、県警などに大きく依存している。県が総合を自認するなら、全部局、東京の出先機関も含め、信州山岳の独得の貴重性を認識し、新たな取組みをすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全登山の啓発等、登山安全条例に基づく県の責務を果たしつつ、登山環境の変化を踏まえ、県が掲げる「世界水準の山岳観光地域づくり」の具現化に向け、観光振興面を含めセンターの役割・機能を再検討してまいります。(県)【再掲】

(様式3)

	<p>(教育委員会との連携)</p> <p>・現在の所管である山岳高原観光課のみならず、条例上の設置主体である教育委員会との連携をさらに強化すべきである。これは、センター側のみの責務でなく、教育委員会側のさらなる協力を期待する。「学校登山」の維持継続のためには、学校教職員がまず登山に関心を示すことができるようなプログラムを、教育委員会として予算処置を行いながら指導していただきたい。さらには、教職員の負担を軽減し安全な学校登山のためにも、優秀な登山ガイドを多数有する本県の強みを生かせるような配慮をお願いしたい。</p>	<p>・学校登山の実施率の低下は、先生方の登山離れも一因かと思われます。かつては、信濃教育会や総合教育センターにおいて、山をフィールドとした臨地講習がいくつか開催されていました。しかしここ10年ほどの間に、そのような講習会や研修会はほとんど開催されなくなってきているように思われます。長野県の先生方に山や登山とのかかわりを多くもってもらえるよう、教育委員会とも連携して教職員対象の登山研修などの機会増に取り組んでまいります。(指定管理者)</p> <p>・学校登山については本県独自の登山文化として大切な感じております。研修プログラムについては、一部、小、中、高教員の指定研修の選択必修研修に指定するなど工夫して実施しております。引き続き、研修内容の充実に努めるとともに、登山ガイドの活用を含め、安全性の確保に努めてまいります。(県)</p>
--	---	---